長崎県地学会誌　第72号　17－19（2008）

日曜地質巡検会記事

第221回（平成20年４月20日）

平成新山溶岩ドーム観察

地形図　１／25,000「島原」・「雲仙」

寺　井　邦　久（長崎県教育センター）
清　水　　洋（地震火山観測研究センター）
江　越　美　香（島原市役所）

４月20日，九州付近は朝鮮半島付近にある移動性高気圧に緩やかに覆われ穏やかな晴れとなった。８：40分くらいから雲仙池原園地下駐車場に参加者が集まり始めた。池原駐車場は上，中，下の３カ所があり，下であることを案内状に明記するべきであった。

当日は，九州大学の清水，松島両氏が５人乗り，８人乗りの九大の車を出していただいた。

８：50　参加者の点呼を行い，**８：55**　九大の車２台と，山田スミコ氏の乗用車計３台に分乗し池原駐車場を出発し，仁田峠に向かった。２台の九大の車は有料料金は不要で，山田車（通行割引400円適用車）は県地学会から通行料を負担することになり，結局有料道路料金は400円ですんだ。また参加者から集める予定だった有料道路料200円は集めなかった。

９：15　仁田峠に到着。島原市役所，国土交通省雲仙復興事務所のメンバーは先に仁田峠に到着していた。

９：20　行動予定の説明をした。コースは大変厳しく全員ヘルメットを着用した。全員がペースを守り，事故なく帰るよう説明した。杉本，清水，松島，寺井会員が４台のトランシーバーを持ち，お互いに連絡を取りながら移動を開始した。

９：35　トイレ等をすませ，出発，先頭は寺井

９：40　仁田峠神社前で，普賢岳の山開きの神事が行われていた。

10：00　薊谷に到着５分間の小休止，みなまだ元気だ。

10：20　峠の茶屋下50m付近で小休止，会員の息遣いが荒くなり始めた。疲労が出る前に休息をとった。

10：30　風穴コースに入り，警戒区域に入山開始，先頭は杉本，江越，清水で進む。

風穴到着前に今村会員が軽く捻挫する。清水会員が状況把握のため後退する。しばらく今村会員が追いつくのを待った。ゆっくり歩けば大丈夫のようだ。

10：40　風穴到着，松島さんはここで地震計の保守点検のためしばらく作業する。

この氷室跡のある風穴付近からパン皮状火山弾が数メートル間隔で観察される。91年６月８日午後19：45頃の噴火と，91年６月11日23：59の噴火によるものと思われる。噴火の方向は千本木の方向であったが，山頂付近では鬼人谷付近にも噴石を飛ばしていたことがわかる。最大径20cm程度のものまで見られる。

11：20　風穴標識到着，10分ほど休息。

11：30　旧道最終地点に到着，周囲の景色を観察，ここからは平成新山ドーム，妙見カルデラ，千々石断層などが遠望できる。

11：35　溶岩ドームに向けて直登ルートを登坂開始。ルートはブロック化した溶岩ドームの斜面を斜めに登坂する。途中から普賢岳ルートと合流しさらに反時計回りにルートを取りながら登坂する。

12：35　平成新山溶岩破砕丘に到着

12：40　昼食

峠の茶屋から風穴ルートを進む会員

第13溶岩ローブから妙見カルデラ、
九千部岳断層、千々石断層を遠望する。

13：00　自己紹介と事務局からの連絡
13：20　溶岩尖塔に向け出発
13：30～13：50　溶岩尖塔周辺の観察，松島さん溶岩尖塔付近の噴気孔の温度を測定。およそ210℃程度の温度を観測した。
13：50　溶岩尖塔を１周し，第11溶岩ドームの見える位置まで移動する。
14：30　第11溶岩ドーム付け根を出発する。
　溶岩ドームに最初に着生した植物はコイワカンスゲである。たくましく生きている。
15：00　平成新山溶岩破砕丘に到着，荷物をまとめ下山準備
15：10　溶岩破砕丘下山開始
16：00　普賢岳山頂に到着
16：10　普賢岳山頂から下山
16：30　峠の茶屋で小休止
16：40　下山開始
17：25　仁田峠到着解散式
17：45　池原駐車場到着。全員帰路に着く。

普賢岳山頂から平成新山を眺める。

参加者：山川　続，渡辺博光，布袋　厚，
宮崎直人，永田和久，石坂征勝，
山田スミコ，今村　宏，松本直弥，
森永健司，寺井邦久，清水　洋，
松島　健，平尾　明，杉本伸一，
梶山義久，江越美香，渡部文人，
田中育穂，児玉幸三，崎山裕一郎，
川下敏雄，浦川孝弘，田中順市，
白石成美

(25名)

図版

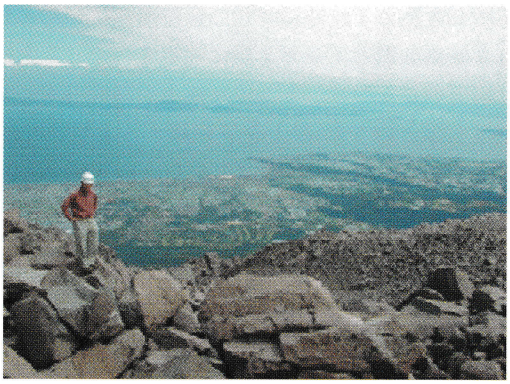
溶岩尖塔を目指して

溶岩尖塔を観察する会員。
左側後方が最高点。

第11溶岩ローブを第13溶岩ローブから観察する。
後方は眉山、有明海の向こうは熊本市の金峰山。

溶岩ドームに最初に着生したコイワカンスゲ。
土壌はほとんど無く、また標高1400mを超す厳しい気象環境の中でたくましく生きる。

第11溶岩ローブから引き上げる。
大きなブロックを乗り越えて前進する。



第13溶岩ローブから深江断層、布津断層、有明海、
三角半島、天草の島々を遠望する。